

令和5年度進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 5 環境の保全と快適で安全なまちづくり

主要課題	No. 47	生物多様性と都市の発展・再生
-------------	--------	----------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●		主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。
4年後の目指す姿	日々の暮らしが、地球上の生きものによる恵みに支えられていることを区民のだれもが理解し、意識するとともに、自然を思いやる行動を心掛けることで、生きもの、ひと、暮らしがつながり豊かな文化を育んでいる。	
計画期間の方向性	○生物多様性に関する普及啓発 生物多様性に対する区民の理解が浸透・定着し、生物多様性に配慮した生活を実践できるようにするため、普及・啓発活動を推進し、意識の醸成を図ります。 ○緑化の促進 区内の緑を保護・育成するとともに、区民の緑化に対する意識を高め、生物多様性に配慮した取組を推進します。	

0 昨年度の施策の方向性（昨年度の点検における「4 今後どのように進めていくか」）	
生物多様性の認知度を向上させるとともに、身近な生きものへの関心を高めるため、講座等において生きもの図鑑を活用する等、あらゆる世代へ向けた意識醸成を図っていきます。また、環境イベント等において手づくりビオトープを周知する等、様々な機会を捉えて、生物多様性に配慮した緑化の促進に努めます。 さらに、生物多様性には欠かせない緑化の促進としては、保護樹木・樹林の所有者に対する助成制度の更なる周知を図ることで、樹木・樹林の維持管理を促進していきます。	

事業費（令和4年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で・何をしたか（実績）		戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。		
事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割	事業費(千円)
164	文の京生きもの写真館～生物多様性を見る・感じる・理解する～	環境政策課	区の生物多様性の現状を把握・周知し、生物多様性を身近なものとしての理解・浸透・定着を図る。	— —
	主な取組実績			単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023)
	① 動植物写真の種数	種	— 77 161 116 —	
	② 生物多様性啓発リーフレット	部	— 2,000 2,000 — —	
165	生物多様性に関する普及啓発	環境政策課	生物多様性に対する区民の関心を高め、意識の醸成を図る。	994千円 (108千円)
	主な取組実績			単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023)
	① 親子生きもの調査参加人数	人	18 19 中止 中止 34	
R3(2021)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、親子生きもの調査「冬の野鳥しらべ」の会場開催を中止とし、区民等が各自で観察した野鳥の報告結果をホームページに「冬の野鳥地図」として掲載しました。			
R4(2022)	親子生きもの調査「冬の野鳥観察会」は新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行いながら、肥後細川庭園において実施しました。申込多数のため、開催回数を増加しました。			
154	環境教育・講座	環境政策課	区民の生物多様性に対する関心を高め、意識の醸成を図る。	1,691千円 (2,330千円)
	主な取組実績			単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023)
	① 環境ライフ講座参加人数（延べ）	人	97 98 中止 76 81	
	② 親子環境教室参加人数（延べ）	人	475 320 中止 176 150	
R3(2021)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、環境ライフ講座は、一部をオンラインにより実施しました。また、親子環境教室は、事業内容を変更し、募集人数を減らすとともに、オンライン等により開催しました。			
R4(2022)	環境ライフ講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に行い、会場にて開催しました。また、親子環境教室は、感染防止対策を十分に行うとともに、募集人数を減らして会場にて開催しました。			
146	緑の維持及び緑化啓発事業	みどり公園課	区民の緑化に対する意識を高め、生物多様性に配慮した取組を推進する。	652,568千円 (689,886千円)
	主な取組実績			単位 H30(2018) R1(2019) R2(2020) R3(2021) R4(2022) R5(2023)
	① 区が指定した保護樹木・樹林育成のための補助	箇所	35 27 41 35 45	
●特記事項（実績の補足）				

2 現総合戦略において、社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「何が良かったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）	
有	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）	
<p>令和4年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）において、2030年までの世界目標が採択されました。国は5年3月に「生物多様性国家戦略2023-2030」を閣議決定し、都は「東京都生物多様性地域戦略」を5年4月に改定しました。</p>		

3 現総合戦略における成果や課題は何か（点検・分析）	1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じていないか」などを点検・分析します。
-----------------------------------	---

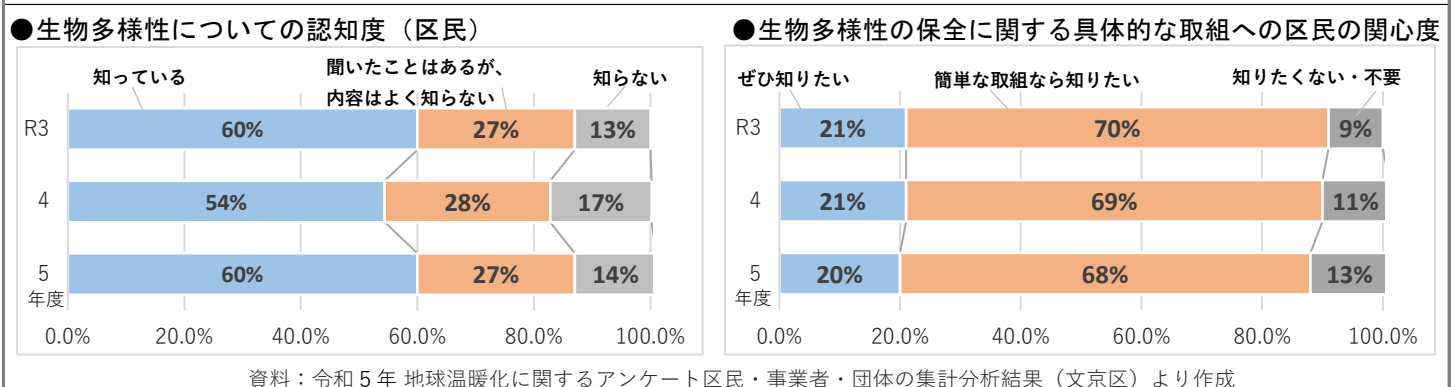
○生物多様性に関する普及啓発

令和2年度・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各種事業を中止する場合やオンラインにて開催する場面もありましたが、4年度は感染防止対策を十分に行いながら会場にて開催しました。啓発リーフレットの区内小中学校への配布や生きもの図鑑の発行、区ホームページでの情報提供など、普及啓発を行うことにより、区民アンケート結果において、「身の回りの生きもの存在に関心がある」と回答した割合は、前年度に引き続き9割程度と高くなっていますが、近年横ばい傾向にあるため、より一層の周知・啓発や、講座等において、生きもの図鑑を活用する等の検討が必要です。

○緑化の促進

区有施設に設置した手づくりビオトープの見本を区ホームページや生きもの図鑑などで紹介し、限られたスペースでも取り組むことができる緑化方法について周知等を行っていますが、敷地内の緑化に取り組んでいる区民の割合は、前年度に引き続き5割程度になっています。手づくりビオトープについて引き続き周知・啓発を行う必要があります。

保護樹木・樹林については、令和2年度に拡充した助成制度により、申請件数が増加し、適切な維持管理が図られています。今後は、増加する老木の適切な維持管理のために、樹木医の紹介制度や、樹木診断への助成を検討する必要があります。



4 次期総合計画において、どのように進めていくか（展開）	3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、令和6年度から9年度までの次期総合計画の計画期間における戦略としての進め方を記しています。
<p>生物多様性の認知度を向上させるとともに、身近な生きものへの関心を高めるため、講座等において生きもの図鑑を活用する等、「文京区生物多様性地域戦略」に基づいた環境教育や普及啓発の取組を推進することで、あらゆる世代へ向けた意識醸成を図っていきます。</p> <p>また、生物多様性には欠かせない緑化の促進としては、保護樹木・樹林の所有者に対する助成制度の更なる周知を図り、樹木・樹林の適切な維持管理を促進していきます。</p>	

5 6年度、事業をどうするか（事業の見直し）	主要課題に紐づけられている個々の計画事業の6年度の検討の方向性を「継続」「レベルアップ」「見直し・縮小」「事業終了」「計画変更」で記します。
-------------------------------	--

事業番号	計画事業名	所管課	次年度の方向性
164	文の京生きもの写真館～生物多様性を見る・感じる・理解する～	環境政策課	事業終了（R3年度）
165	生物多様性に関する普及啓発	環境政策課	継続
154	環境教育・講座	環境政策課	継続
146	緑の維持及び緑化啓発事業	みどり公園課	継続